

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年3月6日聖日礼拝

使徒の働き連講(72)

「囚人が『船長』になる」

使徒の働き27章1節-26節

竿代照夫牧師

聖書朗読 新約聖書

使徒の働き 27章 1節 ~ 26節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています
第二版の聖書は 260 ページ
第三版の聖書は 284 ページ

- 1 さて、私たちが船でイタリアへ行くことが決まったとき、パウロと、ほかの数人の囚人は、ユリアスという親衛隊の百人隊長に引き渡された。
- 2 私たちは、アジアの沿岸の各地に寄港して行くアドラミテオの船に乗り込んで出帆した。テサロニケのマケドニヤ人アリスタルコも同行した。
- 3 翌日、シドンに入港した。ユリアスはパウロを親切に取り扱い、友人たちのところへ行って、もてなしを受けることを許した。

- 4 そこから出帆したが、向かい風なので、キプロスの島陰を航行した。
- 5 そしてキリキヤとパンフリヤの沖を航行して、ルキヤのミラに入港した。
- 6 そこに、イタリヤへ行くアレキサンドリヤの船があったので、百人隊長は私たちをそれに乗り込ませた。
- 7 幾日かの間、船の進みはおそく、ようやくのことでクニドの沖に着いたが、風のためにそれ以上進むことができず、サルモネ沖のクレテの島陰を航行し、

- 8 その岸に沿って進みながら、ようやく、良い港と呼ばれる所に着いた。その近くにラサヤの町があった。
- 9 かなりの日数が経過しており、断食の季節もすでに過ぎていたため、もう航海は危険であったので、パウロは人々に注意して、
- 10 「皆さん。この航海では、きっと、積荷や船体だけではなく、私たちの生命にも、危害と大きな損失が及ぶと、私は考えます」と言った。

- 11 しかし百人隊長は、パウロのことばよりも、航海士や船長のほうを信用した。
- 12 また、この港が冬を過ごすのに適していなかったので、大多数の者の意見は、ここを出帆して、できれば何とかして、南西と北西とに面しているクレテの港ピニクスまで行って、そこで冬を過ごしたいということになった。
- 13 おりから、穏やかな南風が吹いて来ると、人々はこの時とばかり錨を上げて、クレテの海岸に沿って航行した。

- 14 ところが、まもなくユーラクロンという暴風が陸から吹きおろして来て、
- 15 船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができないので、しかたなく吹き流されるままにした。
- 16 しかしクラウダという小さな島の陰に入ったので、ようやくのことで小舟を処置することができた。
- 17 小舟を船に引き上げ、備え綱で船体を巻いた。また、スルテスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて、船具をはずして流れるに任せた。

18 私たちは暴風に激しく翻弄されていたので、翌日、人々は積荷を捨て始め、

19 三日目には、自分の手で船具までも投げ捨てた。

20 太陽も星も見えない日が幾日も続き、激しい暴風が吹きまくるので、私たちが助かる最後の望みも今や絶たれようとしていた。

21 だれも長いこと食事をとらなかったが、そのときパウロが彼らの中に立って、こう言った。「皆さん。あなたがたは私の

忠告を聞き入れて、クレテを出帆しなかったら、こんな危害や損失をこうむらなくて済んだのです。

22 しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにになると、私は神によって信じています。

26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

説教

使徒の働き連講（72）

「囚人が『船長』になる」

使徒の働き

27章1節-26節

竿代照夫牧師

主テキスト

「皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにになると、私は神によって信じています。」
(使徒の働き 27 : 25)

前回のメッセージ:

「私のようになってください」という
証しの重み

< ローマへの船旅 >

1. カイザリヤからミラへ (1 ~ 5 節)

(地図参照)

- ・ ローマ護送団: 百人隊長と部下、
囚人と友人 (アリストアルコ、ルカ・・・)
- ・ 船: 「アドラミテオ」という中型船
- ・ パウロへの厚遇: 寄港地での自由時間



2. ミラからラサヤへ (6 ~ 8 節)

(再度地図参照)

- ・船の乗り換え: ミラで、大型船に
- ・遅い船足: クレテ島の東岸から西向きに

3. 危険な出発 (9 ~ 13 節)

(再度地図参照)

- ・出港の危険についてパウロが警告する
- ・航海士と船長は、利便性だけを考慮して出港を強行する

4 . ユーラクロン (14 ~ 20 節)

- ・ ユーラクロンが襲う
- ・ 船を救うための懸命な戦い
- ・ 絶望状態に陥る

5 . 主による励まし (21 ~ 26 節)

- ・パウロは、「船長」のように人々を励ます
- ・主のみ告げ：
パウロはカイザルの前に立つ
同船者の命も救われる

おわりに

私たちも「同船者」のために、
励まし手となろう